

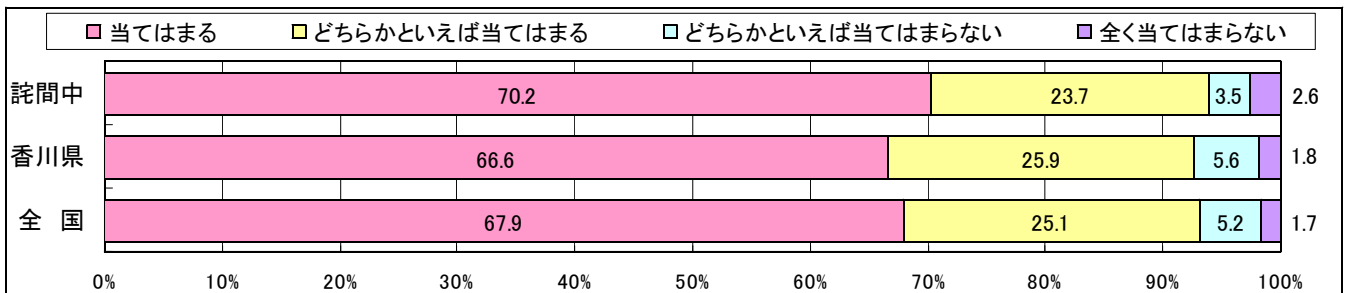


# 浦島伝説

## いじめは絶対に許されない行為です

8月22日、県内の小中学生がいじめ問題について討論する「いじめゼロ子どもサミット2012」が行われました。今日の給食時の放送で、本校代表として参加した濱上華子さんから報告があり、「笑顔であいさつをする」「短所を長所ととらえる」「いじめはダメだと言いつける」などの意見が紹介されました。

さて、下のグラフは、4月に実施された全国学力・学習状況調査の質問紙調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対する回答です。肯定的に回答した生徒の割合を見ると、比較的いい傾向にあります。しかし、「全く当てはまらない」と回答した生徒の割合が多いのが気になります。ここが「ゼロ」にならないと、いじめはなくなりません。いじめは絶対に許されない行為です。



### 孤独なとき 大事なんだ ～いじめを見ている君へ～

最初に断っておくが、いじめは子どもの責任じゃない。大人の責任だ。大津の問題では、自殺から9か月が過ぎたというのに、今ごろ大人たちはバタバタしている。学校も教育委員会も警察も自分に都合のいいことばかり言う。

君は、大人の「見せかけの本音」を見抜いているだろう。言い訳で身の回りを固めた大人たちの姿をカッコ悪いと思うだろう。でもね、大人だって、かつては子どもだったんだ。君だって大人になるんだよ。ある日突然、子どもを卒業して大人になるわけじゃない。今の君の生き方が大人の君をつくるんだ。

今、君がいじめを見て見ぬふりをしているなら、大人になった君もきっと傍観者だ。面倒な問題とは無関係な安全地帯に身を潜めるだろう。それでいいのか。

僕も小学校時代にいじめられた。背が低く、どもりもあったからかな。土に埋められ、砂も食わされた。だれも助けちゃくれない。でも逃げ場はあった。川や森に逃げ、独りで過ごした。協調性ばかりが求められる世の中だけど、僕は孤独が大事だと思う。だれにも見られていないときこそ、本当の自分があるんだ。

君は親や先生や友達の前ではカッコよくふるまうだろう。でも、周囲に知人がいない孤独なときこそ、カッコよく生きてほしい。僕が思う「カッコいい」の意味は、自分の生きている理由を自分で考え、自分の意思で行動できることだ。孤独なときに考えてごらん。今の自分がカッコいいかどうか。どんな大人になりたいのか。いじめられている友達の顔も思い浮かべてごらん。そこで考えた結論が、「大人の君」を決定づけるかもしれない。

※田中浜さん(舞踏家)からのメッセージ(朝日新聞から引用)

**【アメリカ体験記③】** 団長としての最も大きな仕事は、歓迎交流会と市長訪問時に英語であいさつをすることである。事前に見本をいただき、それをもとに少し自己流にアレンジし、完成した原稿を何度も繰り返し練習した。今回の旅で大切な順に並べると、①パスポート、②お金、③あいさつ原稿、になる。

まず、交流会では、ホームステイ先の家族や市の関係者など、大勢の人が参加してくださった。当然、あいさつは最初にあるだろうから、それさえクリアすれば、後は落ち着いて食べたり、飲んだりできると思っていたが、いっこうにその気配がない。それどころか、いきなりバイキング形式の食事会が始まった。心配になって聞いてみると、どうやらあいさつは最後にあるらしい。日本とは順番が逆である。食事もあまりのどを通らず、アルコールも一切口にせず、そのときを待った。おかげで何とかクリアした。

市長訪問でも、ちょっとしたハプニングがあった。まず、市長が流ちょうな英語(当たり前である)であいさつされた。次は、自分の番だと原稿を握りしめていたら、あいさつを終えた市長はサッサと部屋を出て行こうとする。あわてて市長に戻ってもらい、事なきを得たが、日本のように段取りよくいかない。でも、2回目のあいさつは、1回目よりもうまく言えた。これですいぶん気が楽になった。(続く)